2014 年度秋学期
授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	キリスト教・同志社科目

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

キリスト教・同志社科目の実施率は 100%であり、回答率は昨年度秋学期よりやや上昇し、78.1%（2013 年度秋学期、77.6%）であった。
昨年度秋学期のアンケートと比較し、以下 4 点の特徴が明らかになった。

(1) 教員の話し方、授業内容とシラバスの一致は平均値 4.0 を超え、全体的に高い。これは 2013 年度秋学期とほぼ同じ傾向を示している。
(2) 授業に対する意欲的な取組、授業による知的好奇心の高まり、授業内容の理解、教員の授業に対する配慮に関する項目も平均値 3.6 以上であり、全体的にやや高い傾向にある。このことも秋学期とほぼ同じである。ただ、全学のそれぞれの項目の平均値がほぼ 4.0 を超えていることから、全体的には低いことが分かる。これも昨年度とほぼ同じ傾向である。
(3) 授業時間以外の学習時間については、キリスト教・同志社科目の学習時間が 0.20 時間（2013 年度秋学期 0.27 時間）であり、全学平均よりも低い。内訳として、0 時間が 75.3%（2013 年度秋学期 65.1%）という結果であった。これは昨年度とほぼ同じである。0 分が 10%以上増えた点に関しては、やや心配な点がある。同じ授業内容であるなら、学生が学習しないようになったことを示している。今後、注意したい。
(4) DWCLA10 の選択率に関しても、思考力が全体の 51.1%であり(昨年度秋学期 50.7%)、最も高い比率であり、次に創造力 27.7%（作年度秋学期 30.8%程度）が続き、思いやる力が全体の 16.6%(昨年度秋学期 16.1%)を占めている。

全学の科目の平均値と比べると本科目が全体としては、やや低い傾向が見られる。キリスト教・同志社科目は、他の科目と性格を異にしているので、必ずしも同じ観点では評価できない。本科目は、本学の教育理念の一つである「キリスト教主義」を担っている。今後、更にこの科目が充実するように期待したい。また、数字で測定できないものをどのように評価したらよいかについても考える必要がある。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター